

# 介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者 : 80歳代 男性 要介護5

病名: 多発性ラクナ梗塞 高次脳機能障害

利用サービス: 入所

経過: 陳旧性脳梗塞・症候性てんかんにてクリニック通院中。令和4年7月下旬多発性ラクナ梗塞の診断にて回復期適応有り。翌日に回復期病棟ヘリハビテーション目的で入院。入院中は易怒性、意欲低下あり。右肺腫瘍性病変有り。11月中旬に精査加療目的でA病院へ転院。術前検査で発作性完全房室ブロックあり。PM留置などの対応はせず経過観察となる。療養先の検討のため11月下旬にライフサポートねりま入所となる。

## 内 容

多発性ラクナ梗塞にて回復期へ入院したが自発性乏しく意欲低下が顕著にあった。また易怒性有り。老健入所後も同様の状態であった為、ご家族も当初は苦痛を緩和し自然なお看取りを希望されていた。

入所当初は耐久性低く座位保持も困難。食事摂取も意欲低く、全介助にて3～4割程度。ソフト食に補食を付属し、また水分もとろみ小で対応していた。

発語は入所時より度々見られていたが、12月中旬の食形態評価にて全粥+きざみあんかけに挑戦した際にご本人から「麺が食べたい」と強い訴え有り。年末に年越し蕎麦の提供が当施設では行われていることから、年末に向けて嚥下状態の評価、義歯調整、などを行っていくことをチーム間で共有した。

12月下旬に再度食事評価介入。主治医許可の元、カップ麺を2～3にカットし、つゆにとろみを付けて提供。咽頭部に少量残渣見られたが、咳払いなどでクリアランス可能。ミニサイズを全量摂取し、呼吸状態変化無く過ごせた。チーム間で情報共有、精査し、同内容で年越し蕎麦を提供することとした。しかし、12月31日に年越し蕎麦を提供した際はご本人より「食べた気がしない」と発言あり。麺をすすって食べたいという新たなご本人の希望が見られた。

チーム内で少しずつご本人の希望を表出させ、実現に向けて動いていった事によりご本人にも意欲が少しばかりか見え始め、徐々に離床時間の延長、食事の自力摂取時間の割合増加が見られ始めた。

とろみ小から極小へ変更評価し、義歯調整・歯科治療が完了した段階で再度麺摂取に挑戦。2023

年3月下旬、つゆにとろみをつけたうどんを提供。自身でスプーンを使い麺と具を混ぜた後、フォークに持ち替えて麺をすすり、むせなく全量摂取することが出来た。

食形態を少しずつあげていき、約1ヶ月後に昼食時にそばを提供した際は、ご本人が進んで汁に麺をつけて、とろみなしでむせなく全量自力摂取することができた。またその際はご本人から「そばのつなぎがなってないね。もっとうまい蕎麦をオレは知っているよ」などの発言も見られ、楽しそうにスタッフと会話する姿も見られた。

現在は米飯+軟菜、とろみ無しを自力で完食しており、口腔ケアや洗面なども入所時の全介助状態から自力で出来ることが増え介護量がかなり軽減されている。体操などにも意欲的に参加している姿も見られ、入所時に比べかなり活発になっている。